

上田市政について

丸谷 利一 議員

問 上田市長の7選出馬表明にあたり、6期24年間の上田市長の市政運営で、本市にとってどのような成果があったのか。また7選出馬にあたり全国平均よりも著しく進んでいる本市の人口減少や企業の市外流失などの本市の課題に今後どのように取り組み本市の発展にどう繋げていくのかを具体的に伺います。

答 成果としては、リメイク大和郡山で生み出した財源で土地開発公社の負債や住宅新築資金等貸付事業特別会計の赤字を解消し新たな施策に取り組んだ結果、市民サービスの向上に努める事が出来ました。今後は近鉄郡山駅周辺のまちづくりや公共交通の充実等に取り組むことで、移住人口、企業活動等の活発化に繋がると考えています。

地域に支持される教育とそのビジョンの達成について

杉本 葵 議員

問 ①1人1担任制よりも、教員の負担軽減となる複数の教員で学級運営を行う「チーム担任制」について教育長の考えを問う。②本来、市が負担すべき学校運営の費用をPTA会費から捻出していたという事実を把握しているか。③学校運営費増額を求めたい。市長の考えを問う。

答 ①「チーム担任制」は教職員の負担軽減や個に応じた指導や支援がしやすいというメリットがあるが、責任の所在が曖昧になる等のデメリットもあると考えている。②過去には慣例で出されていた場合があると思うが、公費と私費の区別を明確にするよう、各学校長に指導を行っている。③教育環境をより一層充実させ、本市に住み子育てしたいと思われるまちづくりを進めてまいりたい。

小規模化が進む学校での取り組みについて

鈴木 健嗣 議員

問 学校の小規模化に伴い、子供同士が切磋琢磨する機会が減少し、一定規模の集団活動が成立しにくいなどの影響がある。①本市の望ましい学校規模をどう考えているか。②小規模校での取組は？③校舎の老朽化が進むなか、子供たちが学ぶ環境や設備に危険な場所や不具合等はないか。その対処方法は？教育費の増額を要望する。

答 ①児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ認め合い協力しながら社会性を育むことができる一定規模の環境が必要と考えている。②2学年合同で職場体験や校外学習の実施、中学校区で学校運営協議会の開催など。③施設点検マニュアルを配布し学校にて点検を実施している。雨漏りや危険箇所は随時教育委員会で修繕対応している。

地域交通について

上田 健二 議員

問 ①郡山市西部の矢田、小泉地区を中心とした地域と南部の筒井や昭和工業団地を中心としてデマンドタクシーの実証運行が行われますが進捗状況は。②100円バスカードなど高齢者の交通費助成はどのように考えるか。

答 ①コミュニティバスの運行範囲を除いた交通空白地域において、令和7年10月からデマンドタクシーの実証運行を考えております。運賃は1回あたり500円、運行範囲は限定された乗降地点間とし、詳細は種々検討しているところでございます。②コミュニティバス、実証運行予定のデマンドタクシー、また、奈良県警察実施の「高齢者交通安全支援事業」のご利用をお願い申し上げます。

・他の質問項目：住宅新築資金等貸付事業について

上田市政の功績について

下地 敦志 議員

問 市長就任以降、市主導で立ち上げて毎年度継続しているイベントは何件あり、現在の就任期間で総額いくら要したか。また、その財源は主に何か。イベント事業に税金を用いることにより市民生活にどのように還元したと、市長は総括しているか。

答 5件で総額約2,401万円、一般財源です。地域資源を活かす各事業は文化振興やアイデンティティの確立を図ることで、市民の地域への愛着や誇り、心の豊かさを育み、魅力を広く発信する目的があり、本市を担う人材育成や関係人口等の増加に資する投資と考えています。

・他の質問項目：修学旅行等の現状について

アンダーパスの冠水について

子育て支援について

乾 充徳 議員

問 子ども達の未来を考えていくにあたっては、子育て世代が必要とする支援を的確に把握し、これからの子育て支援をどのように進めていくかが重要である。現在、策定中のこども計画と関連して、本市の子育て支援施策に関する将来の方向性をどのように考えているか。

答 こども計画は、令和7年度から5年間を計画期間とし、子育てに関するニーズや課題等を把握した上で大和郡山市子ども・子育て会議において基本理念や施策の方向性を定めていくものであり、策定作業も終盤を迎えています。次年度以降は本計画で定められた方向性に基づき、子育て世代の市民の声に耳を傾けながら、有効な施策や実用性の高い事業の展開に取り組んでいきます。